

# サッカーの活動における暴力根絶に向けて

## JFAリスペクトフェアプレーデイズ2015

JFAは、サッカーやスポーツの現場で顕在化するさまざまな差別や暴力に断固反対し、差別や暴力のない世界をつくるべく、さまざまな取り組みを行っています。昨年は「JFAリスペクトフェアプレーデイズ2014 差別、暴力のない世界を！」を設置し、日本全国で広くメッセージを伝えることができました。

今年も昨年同様に、FIFAフェアプレーデイズ(8月31日～9月8日)に合わせ、「JFAリスペクトフェアプレーデイズ2015」を設置しました。期間中にさまざまな活動を実施し、リスペクト(大切に思うこと)、フェアプレー精神を共有し、また差別や暴力に断固反対するメッセージを広く伝えました。各地域・都道府県サッカー協会(FA)、Jリーグや各種連盟とも協力し、各試合において、キャプテンによる「リスペクト・フェアプレー宣言」やバナーの掲出などを行いました。

われわれの暮らす社会から本当に差別や暴力を根絶するために、これまでの啓発活動を継続するとともに、今年度はさらなる取り組みとして、身近な問題について相談を受けたり、対象者へ“気付き”を伝える役割を担うウェルフェアオフィサー(ジェネラル)を養成しました。

## ウェルフェアオフィサー

### (1)ウェルフェアオフィサーとは？

サッカーに関わる全ての人が安心・安全にサッカーを楽しむことができる環境をつくり

出すこと、またサッカーの活動においてリスペクト精神が浸透し、オン・ザ・ピッチ、オフ・ザ・ピッチでフェアなプレーを確保することが大切であり、誰もがリスペクトやフェアプレーの考え方を理解することが必要です。ウェルフェアオフィサーは、各FAや連盟、競技会、クラブに設置され、サッカーを取り巻く環境の“ウェルフェア”醸成に努めながら、人々がよりサッカーを楽しめる環境を広げる役割を担います。

### (2)ウェルフェアオフィサーの種類と役割

ウェルフェアオフィサーは、リスペクトやフェアプレーを啓発・促進し、暴力や差別などの予防活動を通じて、問題を未然に防ぎ、また顕在化した諸問題に対応、問題解決を図るとともに、問題の内容や重大さによって司法機関や諸関連組織への橋渡しとしての役割を担います。

ウェルフェアオフィサーは、以下の3種類に分かれ、それぞれの役割を担います。

- ①ウェルフェアオフィサー(ジェネラル)
- ②マッチ・ウェルフェアオフィサー
- ③クラブ・ウェルフェアオフィサー

ウェルフェアオフィサー(ジェネラル)は、各地域や都道府県FA、各種連盟等の団体の中での活動、マッチ・ウェルフェアオフィサーは各種公式大会やリーグ等での活動、クラブ・ウェルフェアオフィサーは各クラブでの活動となります(左図参照)。

その中で、マッチ・ウェルフェアオフィサーについては、すでにJFA技術委員会を中心に、2年前のJFA主催大会で初めて配置して以来、各都道府県FA技術委員会の協力のもと、全国の各種大会で配置されてきて



います。さまざまな課題もありますが、関係者の皆さまにご尽力いただき、より良い大会環境の整備が進められています。

## ウェルフェアオフィサー(ジェネラル)認定研修会

「JFAリスペクトフェアプレーデイズ2015」期間中の9月12日に、各地域や都道府県FA、各種連盟の専務理事や事務局長など組織の中核となる方が参加し、ウェルフェアオフィサー(ジェネラル)認定研修会を開催しました。

日時：2015年9月12日(土)

9:30～13:30

会場：日本サッカーミュージアム内ヴァーチャルスタジアム

内容：あいさつ(大仁邦彌JFA会長)

リスペクト・フェアプレーの考え方(松崎康弘JFAリスペクト・フェアプレー委員長)

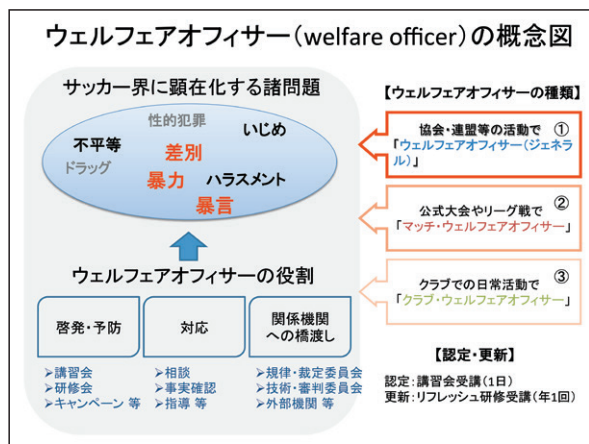
ウェルフェアオフィサーの役割(松崎康弘JFAリスペクト・フェアプレー委員長)

都道府県協会の取り組み(並川宏英 富山県FA専務理事)

Jリーグの取り組み(萩原和之 Jリーグ総務本部長・副コンプライアンスオフィサー)

分科会

- ①各FA・連盟での研修会運営手順
- ②相談窓口の現状と取り組み
- ③マッチ・ウェルフェアオフィサーについて
- ④クラブ・ウェルフェアオフィサーについて



## クロージング・まとめ

(松崎康弘JFAリスペクト・フェアプレー委員長)  
認定証授与(原博実JFA専務理事)

ウェルフェアオフィサー(ジェネラル)は、それぞれの組織での啓発活動、諸問題への対応、関係機関の橋渡し役を担うとともに、マッチ・ウェルフェアオフィサー、クラブ・ウェルフェアオフィサーの認定講習を行う役割も担う、いわば担当地域でサッカー環境をより良くするための中心的な役割が期待されています。

本研修会に先立ち、大仁邦彌JFA会長より「サッカーは世界で最も愛されるスポーツである半面、サッカーを愛するが故の熱血指導からの暴力。それは選手に肉体的な被害を加えるだけでなく、言葉の暴力もある。昨年はJリーグで人種差別の問題も起きている」と日本サッカー界が抱える問題を提起しました。一方、「言葉や人種、宗教などの壁を超え、つながりあえるのもサッカーの大きな力」と伝え、日本のサッカー環境をより水準の高いものにするためには、サッカーやスポーツの現場で顕在化する差別や暴力に断固反対し、リスペクトやフェアプレーの考え方を皆が理解して行動していくことが不可欠であると語りました。

松崎康弘JFAリスペクト・フェアプレー委員長からは「リスペクト・フェアプレーの考え方は、サッカー文化の原点であること」が述べられ、サッカーファミリー全員でこの考え方を広めていきたいと説明されました。また、ウェルフェアオフィサーの役割として、サッカーを楽しむサッカーファミリーの安心・安全を守り、より快適なサッカー環境の構築のための担当者であることが説明されました。

富山県FAの並川宏英専務理事からは、実際に起こった指導者による暴力の問題、その問題にどのように対応したかが報告され、再発防止に向けたさまざまな取り組みについて報告がなされました。富山県では、問題の当事者だけでなく、全県の選手・指導者

への働き掛け、また保護者へのワークショップを通じた働き掛けを迅速に実施してきました。それらの取り組みの詳細については、本誌vol.65の58～59ページ、同vol.67の58～59ページ、同vol.68の49ページで報告した通りです。

Jリーグの萩原和之総務本部長・副コンプライアンスオフィサーからは、Jリーグとしての取り組みの事例、クラブの取り組みの事例が紹介されました。特に差別行為について、その監視体制や再発防止策としての啓発活動などの紹介があり、またクラブの啓発活動として、サポーター向けの人権研修を行い、サッカーに関わる関係者と広くコミュニケーションを行うことで再発防止に努めていることが紹介されました。内容はプロクラブでの活動の報告でしたが、今後プロクラブ以外のクラブでの「クラブ・ウェルフェアオフィサー」の活動として参考となる事例が紹介されました。

分科会①では、ウェルフェアオフィサー(ジェネラル)がマッチ・ウェルフェアオフィサー、クラブ・ウェルフェアオフィサーをどのような手順で養成するか、分科会②では、JFA暴力根絶相談窓口の役割と位置付け、通報に関する事例の共有、今後の各団体のウェルフェアオフィサー(ジェネラル)とどのように連携を行うかが説明されました。分科会③では、これまでJFA技術委員会を中心にマッチ・ウェルフェアオフィサーがどのような活動を行ってきたかについて報告され、分科会④では、クラブ・ウェルフェアオフィサーの基本的な考え方、海外(イングランドFA)の取り組みの事例などが紹介されました。

## 【受講者の声】

- ・スポーツ本来の楽しさを味わうには、大変意味のあることだと思う。
- ・ユースダイレクターや技術委員長と相談して、地区トレセンコーチ研修会を開催して広げていきたい。
- ・技術や審判等と協力して、うまく進めてい

けるように努力していきたい。

- ・ウェルフェアオフィサーの全体像がつかめ、何を指すものかということがよく分かった。
- ・できる部分から推進していこうと思うが、もっと体制的にまともになっていくことを期待したい。
- ・「ウェルフェアオフィサー」と聞くと難しいが、リスペクト・フェアプレーの精神を持って、気付いたことを改善し、予防できるような行動していきたい。
- ・まずは行動を起こす、そして維持することが重要であると考え、その第一歩として良い機会であった。
- ・行動を起こしていくこと、具体的に行動できる人をどのように増やしていくかを考えていきたい。
- ・問題となる事象の根深さを考えると取り組みに尻込みしてしまう。
- ・JFAとして、今後どのように発信・取り組んでいくかが分かると、県協会としての取り組みのプランが立てられるのではないかと考えた。

## まとめ

ウェルフェアオフィサーは、日常のサッカー環境で起こった問題が重大な問題になる前に、関係者とコミュニケーションをとって、“気付き”を伝えることが大切な役割の一つです。選手や指導者も個人で悩みを抱えるのではなく、身近な相談役であるウェルフェアオフィサーに気軽に相談できるよう、JFAおよび各団体のウェルフェアオフィサーで連携し、体制の構築を進めていきたいと考えています。

将来的には、日常のサッカー活動場所である各クラブにおけるクラブ・ウェルフェアオフィサーがより大切な役割を担って考えています。JFAや各団体だけでなく、サッカーファミリーの皆さんとも考え方を共有し、より良いサッカー環境を整備したいと考えていますので、引き続きご理解ご支援いただきたくお願い申し上げます。

